

三井造船、東京港埠頭からコンテナクレーン6基受注

Edited By LogisticsToday On 2015/02/06



三井造船は5日、東京港埠頭（東京都江東区）からコンテナクレーン6基を連続受注したと発表した。

同社が受注したのは、川崎汽船が借り受けている大井埠頭第2バース向けコンテナクレーン2基、品川公共埠頭SEバース向けコンテナクレーン1基、韓進海運が借り受けている中防外コンテナ埠頭Y2バース向けコンテナクレーン3基。

大井埠頭向けコンテナクレーンは、コンテナ船の大型化に対応できるよう設計。20列大型コンテナ船に対応し、荷役効率を高めるツインリフトスプレッドを搭載し、近接する羽田空港の高さ制限に適合するため、中折れ機構も備える。

品川公共埠頭向けはパナマックスコンテナ船に対応し、三井造船が2011年に納入したコンテナクレーンとほぼ同じ仕様となる。

中防外コンテナ埠頭向けは22列大型コンテナ船に対応し、大井埠頭向けと同様にツインリフトスプレッドを搭載している。羽田空港の高さ制限に適合する日本初のシャトルブーム式コンテナクレーンとなる。超大型地震（レベル2地震動）に耐える免震機構を備える。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/145727>

Copyright © 2019 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.